

仏像彫刻のよろこび

大原莊司編

喜、悦、歡、慶、欣、愉

志賀直哉と仏像

木喰上人作 薬師如来 享保



柳宗悦より（志賀直哉）
志賀直哉随筆 マスコット

食堂に入っていくと、直ぐ眼についたのは木喰上人の薬師如来の木像だった。私は先刻からこれを忘れていた。二十五年前、山科に住んでいた頃、柳宗悦から貰ったもので、これこそ、我家のマスコットで、マスコットと云えるものはこれ以外、私の家にはなかったと気がついた。

志賀直哉



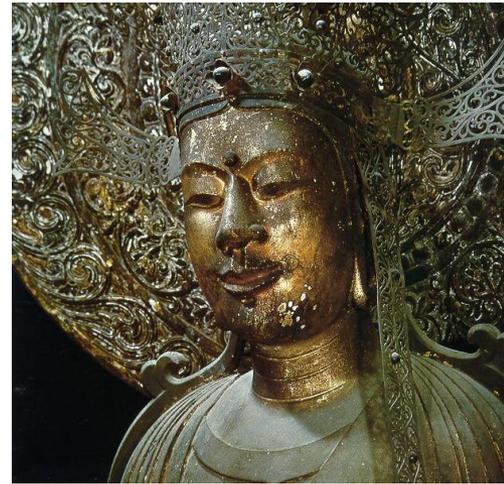
円空仏 元禄

救世観音



夢殿の救世観音を見ていると、その作者というようなものは全く浮かんで来ない。それは作者というものからそれが完全に遊離した存在となっているからで、これは格別なことである。

志賀直哉



観音像



早稲田大学・会津八一記念博物館が所蔵

私は自然に亡びるものは亡びさした方がいいのではないかと思った。亡びる時が来たものを無理に保護し、残して見ても、それがどれだけ今後の文化に貢献するか、功なり名をとげた人間をいつまでもこき使う感じで無慙な気がする。法華堂の弁財天がぼろぼろになって厨子の中に立っている姿を見ると、もういい加減に勘弁して土に返してやりたいような気がする。それが自然なことだと思う。

志賀直哉「閑人妄語」



東大寺法華堂 弁財天

偶像崇拜批判

心を刻む（刻而苑）

もとより仏像とは“形なき形”ですから、仏心を抽象化して造形された物が仏像であります。造佛には作者が心血をそそぎ、仏身の象徴として形体化し、立体的に彫刻し、美化したものだといえます。

仏像の形体は全て三十二相の儀軌によってなされ、その儀軌を無視することは仏像としての意味がありません。しかし、あまり忠実に儀軌を守るとすれば、仏像として表現することは不可能なことになります。

佛母定朝法印四十世 田中文彌

定朝（～1057）



溪声社 (1976)

佛の三十二相

1. 足下安平立相（そくげあんぴょうりゅうそう）
足の裏が平らで、地を歩くとき足裏と地と密着して、その間に髪の毛ほどの隙もない。
3. 長指相（ちょうしそう）
10本的手指（もしくは手足指）が長くて繊細なこと。
5. 手足指縵網相（しゅそくしまんもうそう）
手足の各指の間に、鳥の水かきのような金色の膜がある。
7. 足趺高満相（そくふこうまんそう）
足趺すなわち足の甲が亀の背のように厚く盛り上がっている。
9. 正立手摩膝相（しょうりゅうしゅましっそう）
正立（直立）したとき両手が膝に届き、手先が膝をなでるくらい長い。
14. 金色相（こんじきそう）
身体手足全て黄金色に輝いている。
21. 肩円満相（けんえんまんそう）
両肩の相が丸く豊かである。円満。

25. 獅子頬相（ししきょうそう）
両頬が隆満して獅子王のようである。

29. 真青眼相（しんしょうげんそう）
眼は青い蓮華のように紺青である。

31. 頂髻相（ちょうけいそう）
頭の頂の肉が隆起して髻（もとどり）の形を成している。肉髻（にくけい）。（肉髻珠）

32. 白毫相（びゃくごうそう）
眉間に右巻きの白毛があり、光明を放つ。伸びると一丈五尺ある。

八十種好の主なもの

耳が肩まで届く程垂れ下がっている。
首筋に三本のしわがある。（三胴・三道）
眉が長い。
鼻の穴が見えない。

仏像と偶像崇拜？

人間の本来の理想像（菩提心、自性清浄心）への手がかりを与える拠り所（大乘仏教初期より）

仏像彫刻は、坐禅、念仏、写経、写佛と同じ佛作、佛行

般舟三昧経

一つには、**佛の形像を作り**、若しは畫を作る

三昧：散乱を止め、静寂無為の本然の心性を体験する

直指人心見性成佛（三界唯一心、心外無別法、心佛及衆生 是三無差別
：華嚴経）

拈万木は拈自己なり（自証三昧）

「心を刻む」というのは、志賀直哉の小説に通ずる

しばられ地蔵



仏像の始まり

釈迦牟尼仏陀入滅 383BC
涅槃直後より佛舎利崇拜

仏塔礼拝 3CBC以前
アショカ王 八万四千塔

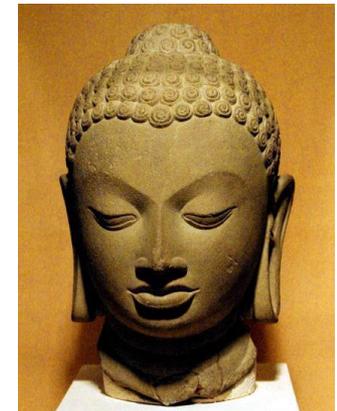
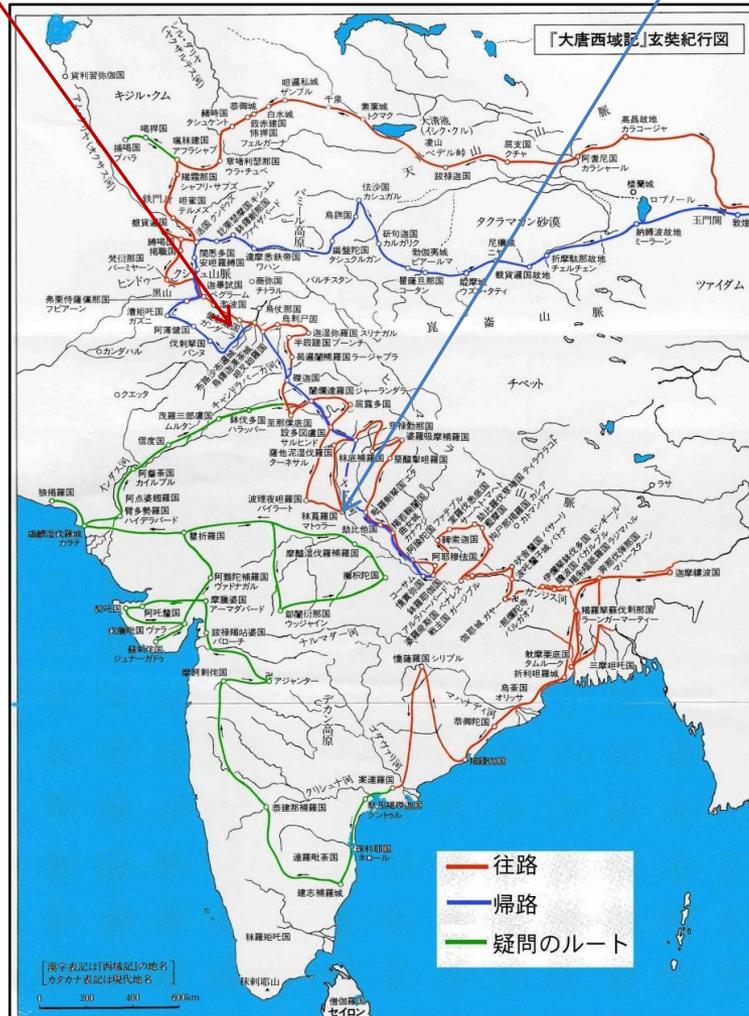
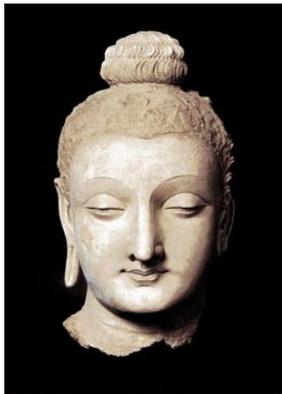
仏陀の視覚化 三十二の大人相（阿含経）
法輪、足跡、仏塔などの象徴物 1CBC頃

ガンダーラ、マトゥラー で仏像の創始 AC1~2C
部派仏教僧による推進と大乘仏教の興隆

初期の仏像

ガンダーラ仏

マトゥーラ仏



三身

法身

報身

応身

毘盧遮那仏

阿弥陀如来

釈迦如来

自性身
ブツダの説いた正法
を身体とする

受用身
完全な功徳を備えた仏身

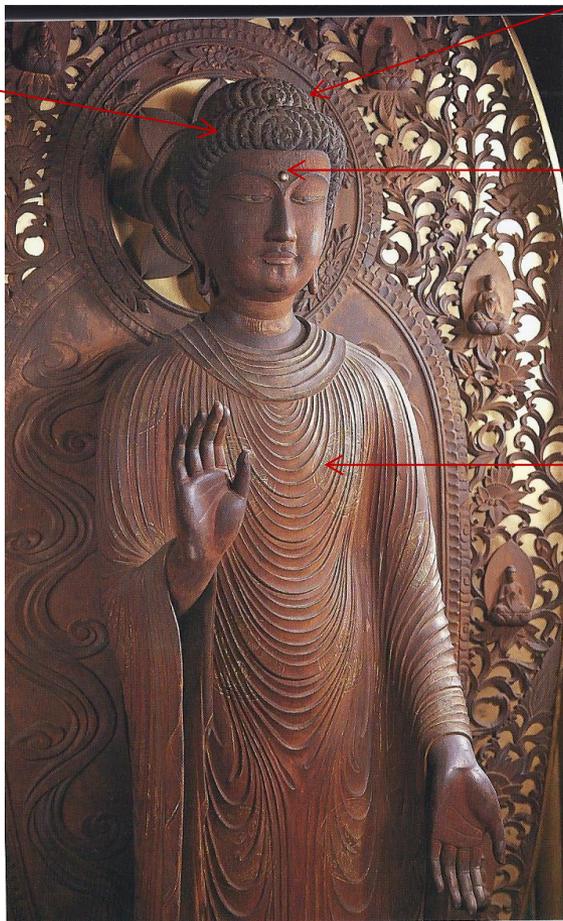
化身
衆生を済度するため応現
した身体

彫刻の対象となる仏さんたち

如 来

肉髻

螺髪



白毫

衣文線

唐招提寺 清凉寺式釈迦如来像
三国伝来の釈迦像

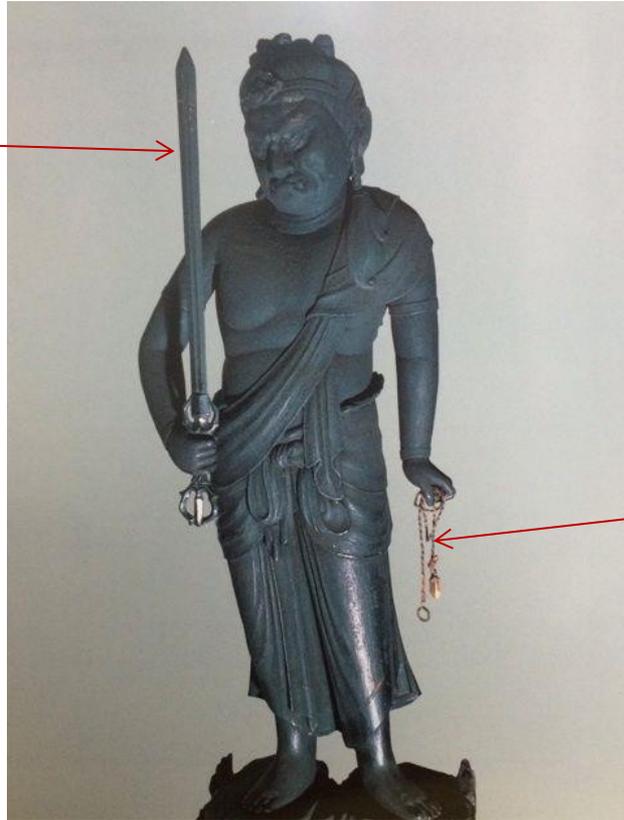
菩 薩



向源寺 十一面觀世音菩薩像
滋賀県長浜

明 王

宝刀



絹索

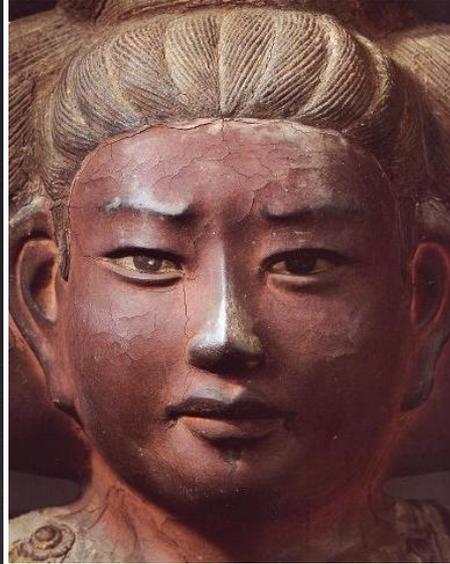
高野山 波切不動明王

諸天

三面六臂



興福寺 阿修羅像



いかりが活力源

三善道 天・人・阿修羅

三悪道 地獄・餓鬼・畜生

高僧

しゅび
塵尾



橘寺 聖徳太子勝鬘經講讚像



唐招提寺 鑑真和上像

仏像彫刻のご縁

文殊菩薩像

四十世仏師文彌作



呉神応院坐禅堂





定朝四十一世仏師
田中 文彌先生

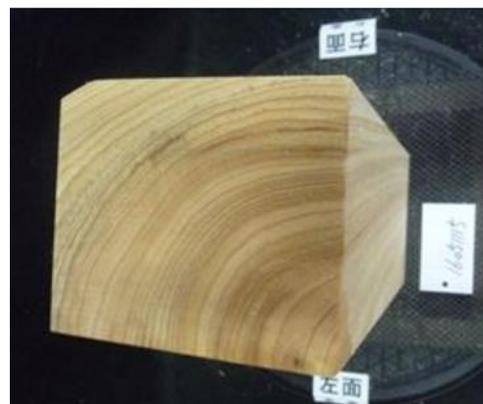
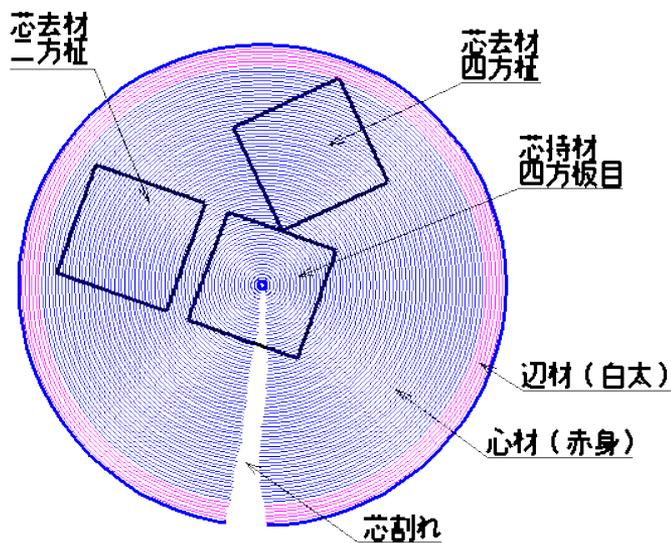


田中文彌作 円山地蔵尊（大雲院）

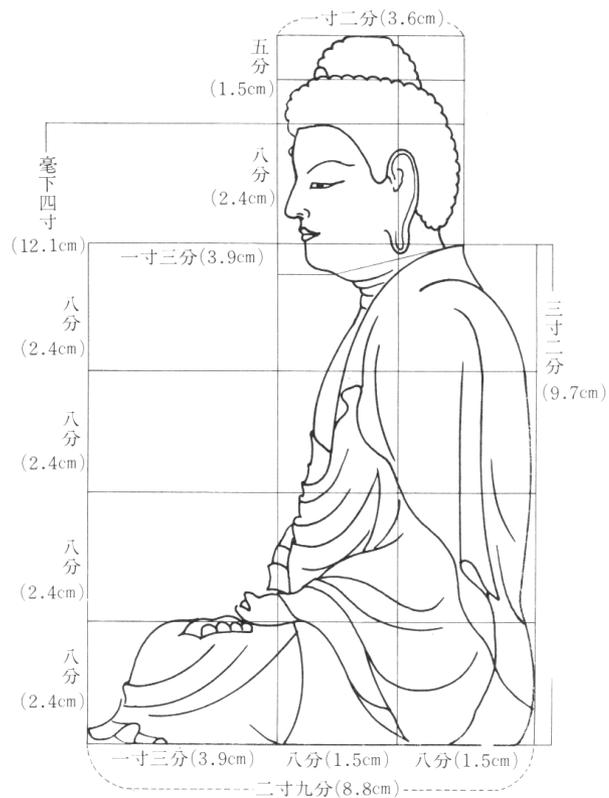
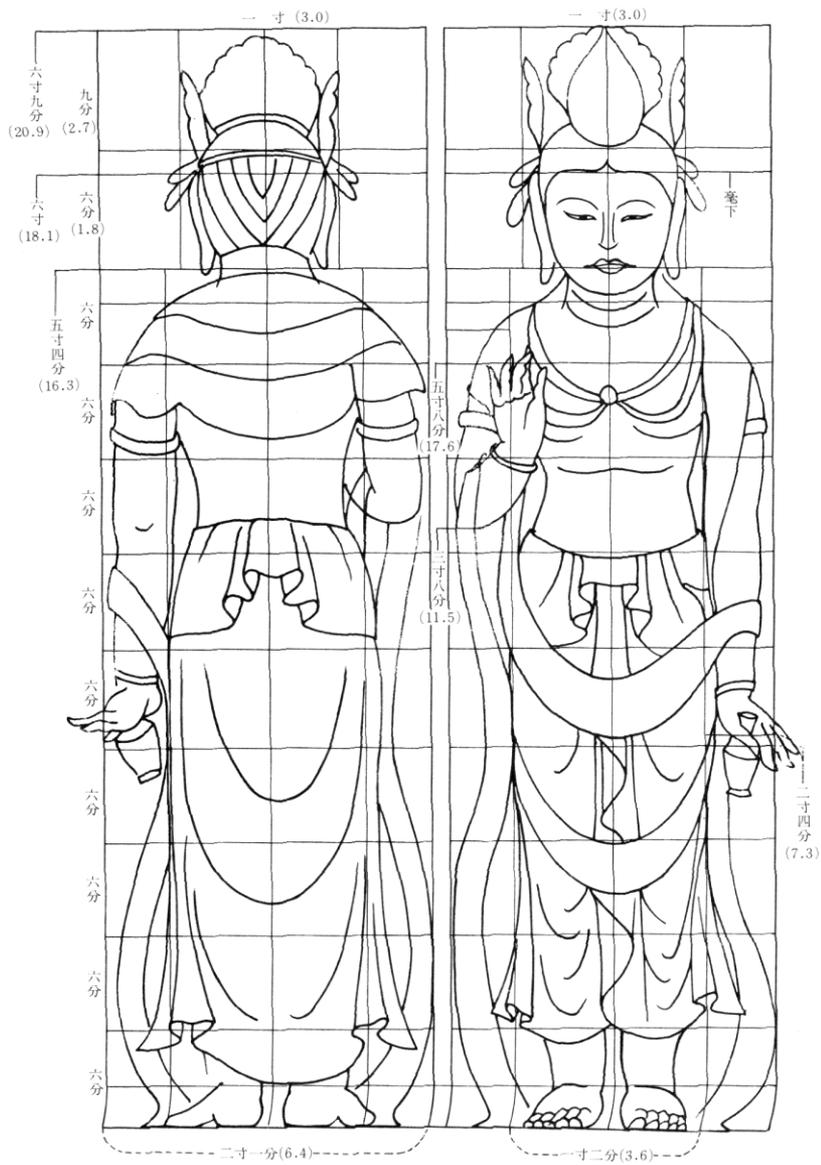
仏像彫刻の実際

仏像彫刻の材料

檜、楠が中心



年輪の間隔が細かくしほうまさ
が望ましい



聖徳太子孝養像の制作工程例

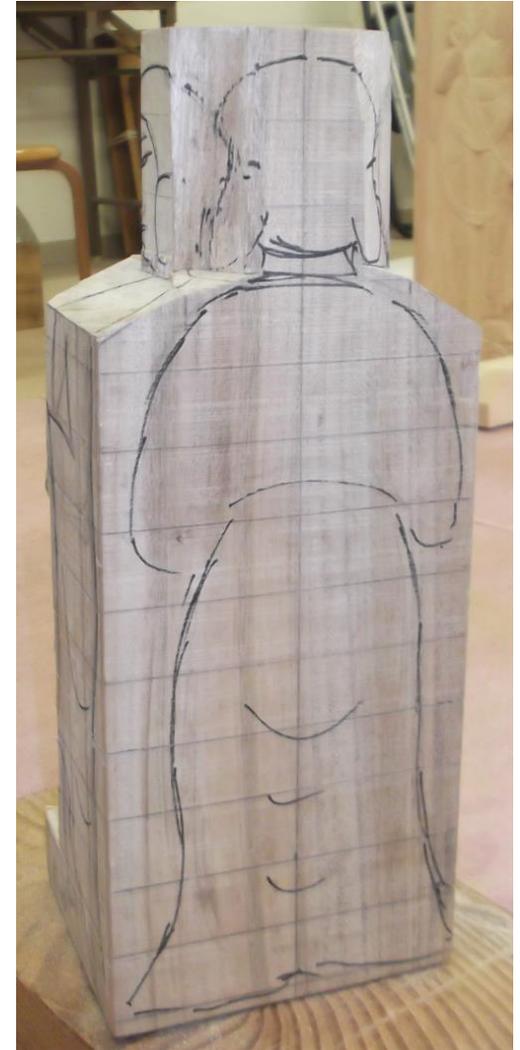
太子十六歳像



デザインが大切



ノコと平ノミで輪郭を追う



腰の位置確認



角を落とす



落とした後にデッサンを描き直す

45度の発見



これは立体ではない

みずら
角髪



一か所を彫り進
まないで常に全
体をみる

部分的丸みに気を取
られて
ゴロツとしたものに
ならないようにする

大きなと平のみを使い
できるだけ面で形を追う



一部分に集中せず、全体を徐々に形作る

耳の彫りや顔の彫り



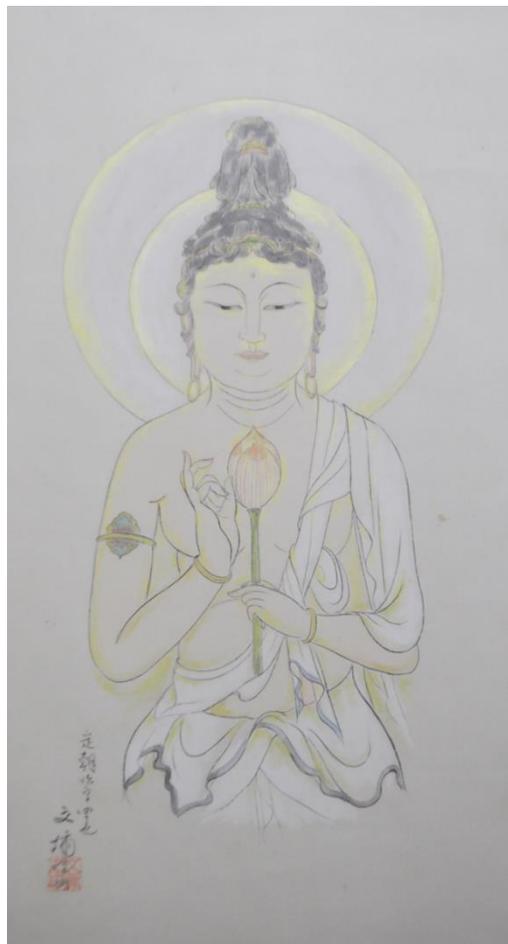
中心線を常に意識



生え際と口元の間は目

仏心を何次元で表現するか

仏画とレリーフ



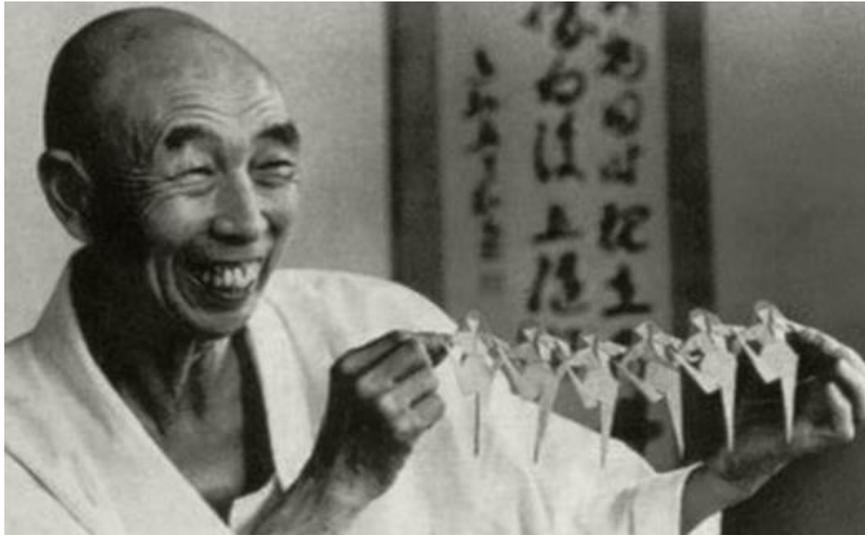
2次元?で表現する



四十世仏師文彌作 聖観音

当流には「木像より絵像、絵像より名号」といふなり
連如

折り紙佛



内山興正老師



木彫のみ



箱のみが使いやすい



彫刻刀



变形彫刻刀



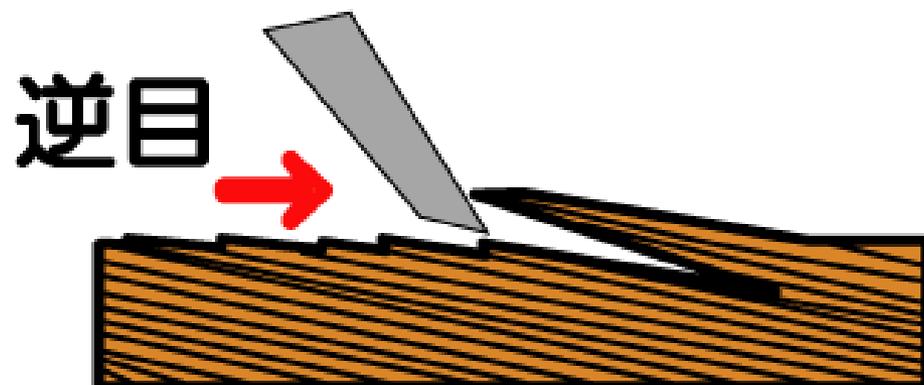
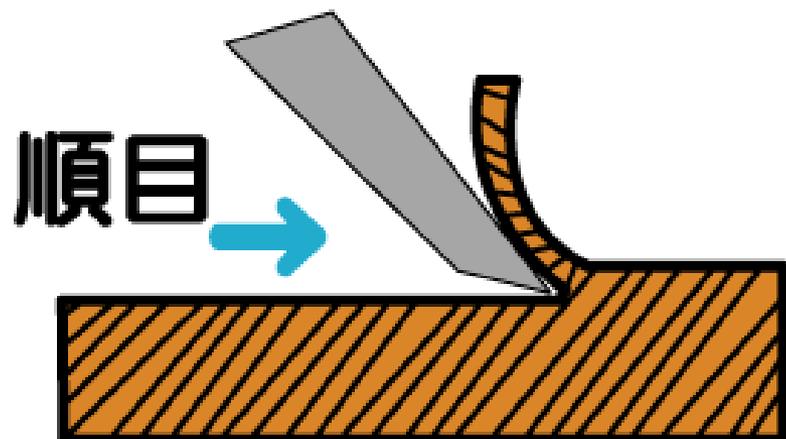
砥ぎ三年





砥ぎの悪い刀ほど**けが**しやすい

順目、逆目







多面体で形作り





おしりを取りすまねない



暫く描いてあらためて観ると、おかしなところがわかる



顔は後回しに



小鼻を削りすぎない





両手が大きい



柄が通る穴をドリルでアケル

左手がまだ
大きい

リアルすぎるのも
おかしい



別途彫った柄付高炉
を取り付ける

人差し指、小指
にアクセント

無造作に通り一遍の
彫り方をせず抑揚を
つける

仏像の印相



2 定印 1



1 施無畏印 与願印



4 說法印 1



3 触地印



6 說法印 2



5 智拳印



8 来迎印



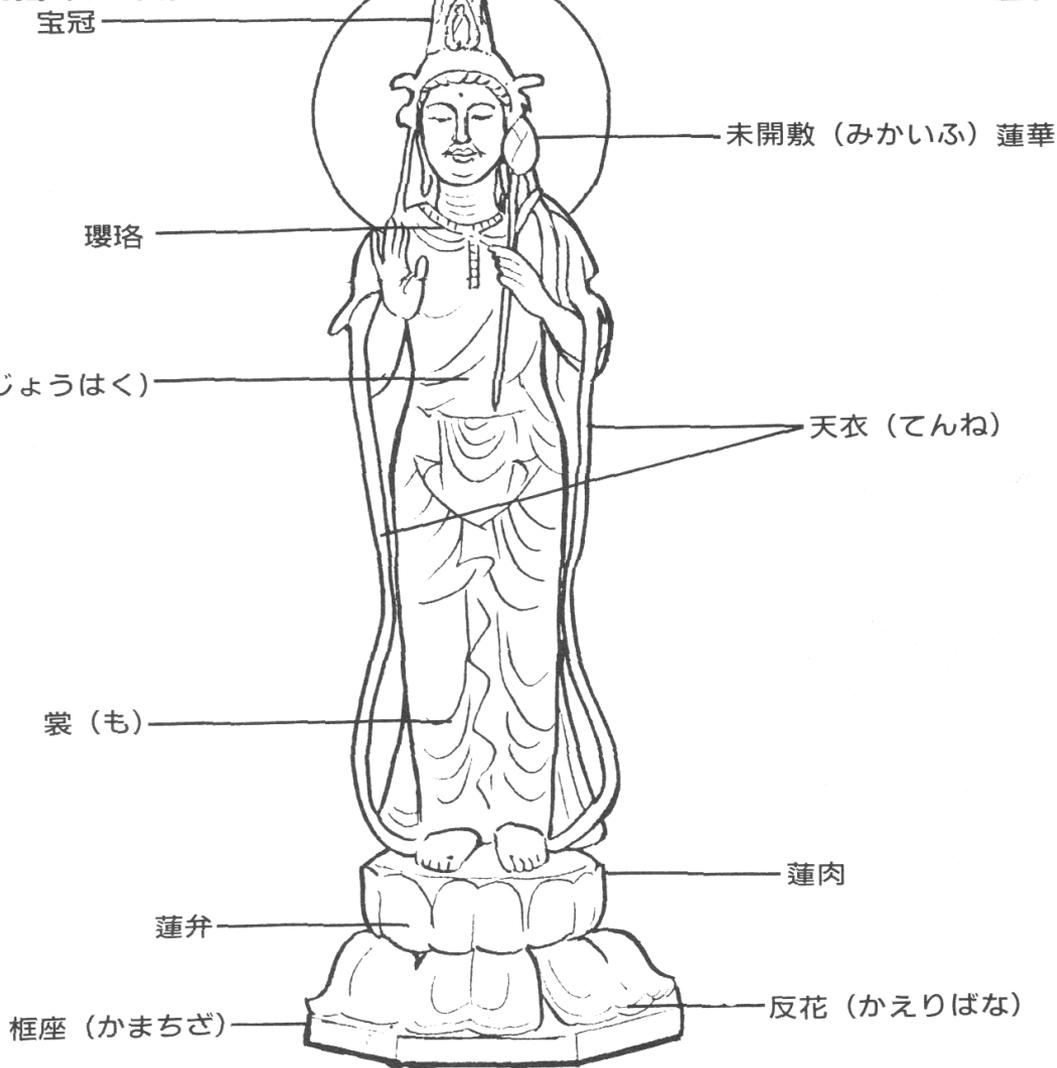
7 定印 2



新薬師寺 薬師如来

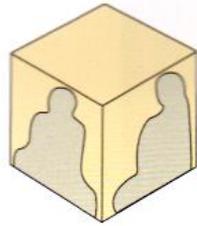
すべての観音の基本形

聖観音

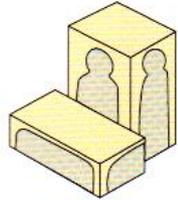


花山勝友「仏像のすべて」より

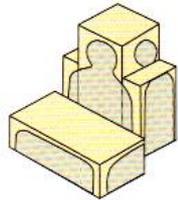
坐像の寄木造り



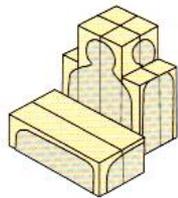
a 全体を一材で彫出



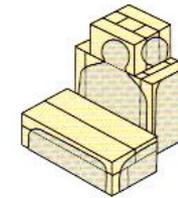
b 頭体部に脚部を寄せる



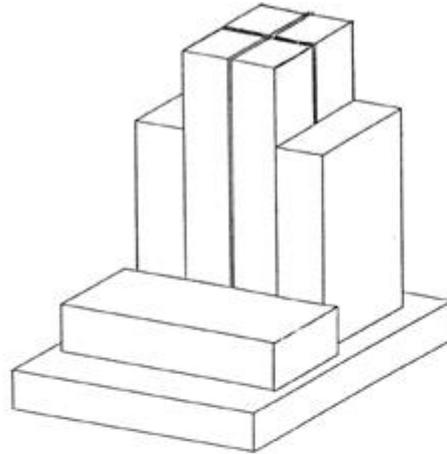
c 両肩に各一材を寄せる



d 頭体部に複数材を寄せる



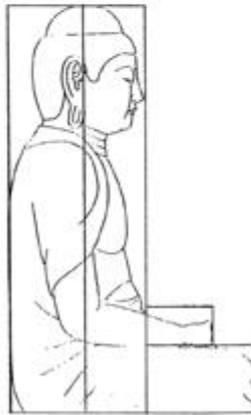
e 箱状に木を寄せる



(1) 用材を仮接合



(2) 粗彫り



(3) 分解し内刻りの後、
接合して仕上げる

仏像の着衣



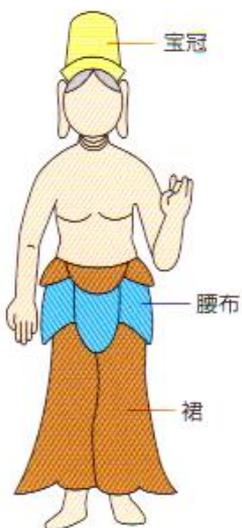
天衣

c 天衣を着ける



条帛

b 条帛を着ける



宝冠

腰布

裙

a 裙と腰布を着ける



覆肩衣

d 偏袒右肩で覆肩衣を着ける



袈裟

c 袈裟を偏袒右肩に着ける



b 袈裟を通肩に着ける



裙

a 裙を着ける

観音

如来



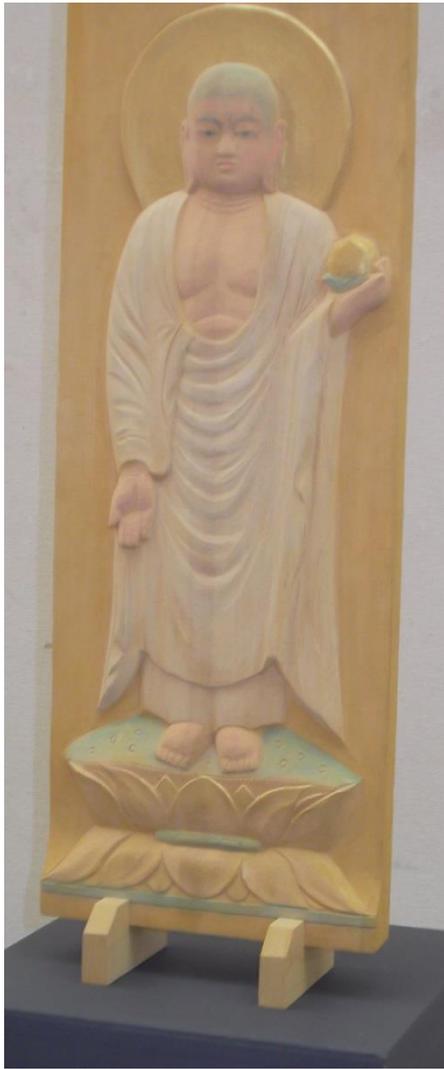
佛像彫刻展
毎年七月
京都府立文化芸術会館

刻而苑彫刻教室
主宰 佛師 文彌

京都社会福祉会館
第一日曜 午後1時



仏師 文彌作 観音菩薩



仏師 文彌先生作
地藏菩薩



仏師 文彌先生作
天舞



弥勒佛
黒川健次
刻而苑

黒川健次作 弥勒佛



迷企羅大将 加藤 隆作



大原莊司作 善財童子



大原莊司作
弥勒菩薩







柴田寛子作 森の詩



藤本博史作 釈迦如来立像



大黒天



川竹四郎作 紫陽花



大原莊司作 日光菩薩



千代博子作 薬師三尊

仏像と生活



お厨子とお内佛

念持佛



子：千手觀音
午：勢至菩薩

丑・寅：虛空藏菩薩
未・申：大日如來

卯：文殊菩薩
酉：不動明王

辰・巳：普賢菩薩
戌・亥：阿彌陀如來

台所の守り・韋駄天さん



北方を護る



毘沙門天（多聞天）



2月5日 太子道（葬送の道） 法隆寺～叡福寺

出開帳



お身代わり像

明治38年、ドイツ帝室博物館から陳列のため模刻像を造りたいという要請が寄せられ、法隆寺も同意、京都の仏師・田中文弥によって一ヶ月余で完成している。

百済観音

ドイツベルリンのダーレム博物館

彫ってみたい仏像

